

平成26年度 消防長「政策宣言」達成状況報告

消防長 竹谷 進

○ 平成26年度重要事業

事業名	住宅火災による死傷者及び火災件数の減少
目 標	<p>地域や関係団体等と連携して、住宅用火災警報器の設置を推進するとともに設置の義務化から6年目となることから電池切れに関する啓発を行い、住宅火災による死傷者ゼロを目指します。</p> <p>また、事業所に対しては、危険物施設への立入検査を重点とした防火対策と自衛消防隊への訓練指導により、発災時における被害の軽減を目指します。</p>
年度末達成状況	<p>住宅用火災警報器の設置については、未設置世帯を重点的に訪問し設置促進に努めました。火災については、平成26年中の火災件数の激減に反し、今年に入って一般住宅の全焼火災が続いていることから、住宅用火災警報器の効果も検証しながら更に設置推進を図ります。</p>
自己評価	<p>平成26年は、住民の皆さんや事業所の協力により火災の件数が激減し、焼死者ゼロ、負傷者も半減しました。消防関係者の地道な火災予防活動が、住民の皆さんの意識高揚につながったものと感謝しています。</p>

事業名	救命率の向上
目 標	<p>年々増加する救急出動に対し、119番受理時に必要に応じて口頭指導を確実にを行い、救急救命士による高度な救命処置と症状に応じた病院選定に努め、病院収容までの時間短縮を図ります。</p> <p>また、AED設置事業所を対象とした救命講習会を開催して、まちかどAED制度の拡充と救命率の向上を目指します。</p>
年度末達成状況	<p>収容時間の効果はまだ出ていませんが、救命率の向上につながる通信指令体制づくりや救急講習件数の増加を図りました。</p>
自己評価	<p>救命率の向上は、概ね予定どおり推進できたものと考えています。引き続き、収容時間の短縮を図りつつ救急活動のレベルアップに努めます。</p>

事業名	消防施設及び設備の整備
目 標	<p>迅速・的確な消防・救急及び救助活動を実現するため、2ヶ年で消防・救急無線をアナログからデジタルへの変換工事に合わせて指令台の改修を行い、クリアな音声通信や秘匿性の向上のもと、指令・現場情報の伝達機能を強化するとともに、救助工作車や救急車等を更新整備します。</p>
年度末達成状況	<p>デジタルへの変換工事は、平成27年12月からの運用開始に向け順調に進捗しています。また、消防車両の更新が済み、既に現場活動に使用しています。</p>
自己評価	<p>目標どおり、消防施設及び設備の整備を着実に実行することができ、消防力のハード面で維持増強は図れたものと思います。</p>